

名張市教育振興基本計画

**第二次名張市子ども教育ビジョン
令和3年度進捗状況報告書**

令和4年12月

名張市教育委員会

— 目 次 —

はじめに	1
基本目標 1 確かな学力の向上	3
(1) 学力の向上	
(2) 特別支援教育の推進	
(3) キャリア教育の充実	
(4) GIGA スクール構想の実現による学習活動の充実	
(5) 就学前教育の充実	
(6) グローバル人材の育成	
基本目標 2 豊かな人間性の醸成	6
(1) 人権・同和教育、道徳教育の推進	
(2) ふるさと学習「なばり学」の推進	
(3) 持続可能な社会の作り手となるための教育の推進	
(4) 読書活動・文化芸術活動の推進	
基本目標 3 健やかな体の育成	9
(1) 健康教育の推進	
(2) 体力向上に向けた取組の推進	
(3) 食育の推進	
基本目標 4 活力ある学校づくり	11
(1) 教職員が働きやすい環境づくり	
(2) 学校の組織力の向上	
(3) 教職員の指導力の向上	
基本目標 5 安全で安心な教育環境の整備	14
(1) 子どもの安全・安心の確保	
(2) いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり	
(3) 居心地の良い集団づくり	
基本目標 6 家庭・地域との協働の推進	17
(1) 家庭の教育力の向上	
(2) 地域の教育力の向上	

はじめに

1 第二次名張市子ども教育ビジョン

教育委員会では、「夢をはぐくみ心豊かでいきいきと輝く『ばりっ子』」を、めざす子ども像に掲げ、教育振興と新たな教育課題を解決するため、2010（平成22）年10月に名張市教育振興基本計画「名張市子ども教育ビジョン」を策定しました。

第二次名張市子ども教育ビジョン（以下、「本計画」という。）は、子どもを取り巻く教育環境が激しく変化していく中において、「名張市子ども教育ビジョン」をより確実な成果につなげていくため、10年先を見据えた長期的な視点に立ち作成しました。計画の期間は、本市の総合計画『新・理想郷プラン』との整合を図り、2016（平成28）年度から2025（令和7）年度までの10年間としていますが、2020（令和2）年度をもって2016（平成28）年度から5年間の前期計画を終えたことから、2021（令和3）年度からは後期計画に基づき、前期計画における施策を引き続き実施するとともに、「学校のICT環境の整備と子どもたちの情報活用の力の育成」「持続可能な社会の創り手となるための教育の推進」「スクール・コミュニティの体制の構築」の三つの新たな施策を設定し、取組を推進しております。

本計画は、市総合計画に示す教育分野の施策を具体化する行動計画として位置付け、「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち 名張」の実現に向けて、本市の教育の方針や取組を体系的に整理し、市民総ぐるみで子どもの教育環境を整える計画としています。

2 進捗状況

この報告書では、本計画に掲げる施策の2021（令和3）年度、後期計画第1年次となる進捗状況や取組内容、成果と今後の取組の方向性について表記しました。なお、新型コロナウイルス感染症の再拡大等により一部の取組内容に制限や中止等があり、令和3年度の成果指標や活動指標の実績値及び進捗率が低かった項目があります。また、2021（令和3）年度から後期計画が始まったことから、成果指標・活動指標の一部見直しや計画最終年度である2025（令和7）年度の目標値を設定しています。前期計画期間においては、全30項目中13項目で目標値を達成しています。2021（令和3）年度では5項目において目標値達成となりました。

指標の中でも、「国語・算数（数学）の授業が「よくわかる」・「どちらかといえばわかる」と答えた児童生徒の割合」（小学生/算数）、「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の指導計画を保護者の合意のもとに作成している割合」（小学生）、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合」（小学生）、「学校生活支援ボランティアの登録者数」、「目的をもって生涯学習に取り組んでいる市民の割合」の指標については、非常に高い達成率を示している指標となります。

しかしながら、「平日、学校の授業時間以外に「1日当たり30分以上の読書をしている」

と答えた児童生徒の割合」(中学生)、「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」(中学生)、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価(5段階)がABCとなった児童生徒の割合」(中学生女子)、「教育センターで開催した研修講座のアンケートで「A(満足)、B(どちらかという満足)、C(どちらかという不満)、D(不満)」のうち、「A(満足)」と回答した参加者の割合」の指標については、令和2年度に引き続き令和3年度においても0%となりました。

3 成果と課題

本後期計画等の1年次の成果として、本格実施となった小中一貫教育の導入に伴い、市内全中学校区において作成されたランドデザインを基に、具体的な取組が見られます。一例としては、年度当初に同一中学校区内の全校長が集まり、ランドデザイン推進に係る共通理解を図る機会を持つとともに、定期的に進捗状況の確認や情報交換を図りました。今後も、コミュニティ・スクールとの関連を図りながら、義務教育9年間の系統性・連続性を重視し、子どもの発達に合った学びを実現していきます。

また、名張版コミュニティ・スクールの推進・充実においては、各学校の学校運営協議会の場において、それぞれの学校や校区の課題に適応した熟議が開かれています。「学校運営」、「学校支援」、「地域貢献」を柱として、学校と保護者・地域住民それぞれが、より当事者意識を持ち、連携・協働した取組を進めるとともに、子どもを核とした地域づくりである「スクール・コミュニティ」体制の構築を進めていきます。

教育センター機能の充実においては、GIGAスクール構想に基づいて整備された一人一台端末等を活用し、子どもの情報活用能力の育成を目指すとともに、ICTやデジタル教科書を有効活用した教育実践の向上のため、今後さらに教職員の研修を充実させます。また、子どもの体験や学びの場としての週末教育事業の充実、家庭教育連続講座や豊かな子育て研修講座など、保護者のニーズに応じた研修にも積極的に取り組みます。一方、多様化・複雑化の一途にある学校現場の課題の改善・克服に向けて、今後も教育と福祉・医療との連携(名張市地域福祉教育総合支援ネットワーク)を進めます。

生涯学習の分野では、「家庭・地域の教育力の向上」「持続可能な社会の創り手の育成」「子どもの社会への主体的参画」の実現を目指し、名張市社会教育委員会において協議を進め、2022(令和3)年度末に、社会教育委員により提言を取りまとめていただきました。今後、提言を参考にしながら「子どもを核とした生涯学習ネットワークの構築」に向け、学校、地域づくり組織、市民センター等、子どもの育ちにかかわる主体の連携、協働を一層進めてまいります。

市内の学校施設等の整備につきましては、感染症対策として市内全小中学校の手洗い場水洗の一部自動化を進めました。また、教職員用タブレット端末へデジタル教科書(指導者用)を導入しました。今後、国の動向も注視しつつ児童生徒用端末へのデジタル教科書やその他本市にあった学習支援用アプリの導入活用等を進めながら、学校のICTの学習環境の更なる整備と子どもの情報活用能力の育成のための教師の指導体制の充実を図ります。

基本目標1 確かな学力の向上

担当室 **学校教育室**・教育センター・図書館
教育総務室〔保育幼稚園室〕

1. めざす姿

学校では、子どもの学ぶ意欲が引き出され、発達や理解度に応じたきめ細やかな指導が行われています。保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小中学校等の連携が強化され、一人ひとりの子どもの学力にかかる課題を共有し、その解決に向けた指導方法の工夫と改善が図られています。子どもは、夢の実現に向けて、知識・技能とともに、主体的・協働的に問題を発見し解決していくための力を身に付け、将来、持続可能な社会の創り手となるための人間性の基礎を培っています。

2. 主な取組

- (1) 学力の向上
- (2) 特別支援教育の推進
- (3) キャリア教育の充実
- (4) GIGAスクール構想の実現による学習活動の充実
- (5) 就学前教育の充実
- (6) グローバル人材の育成

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

成果指標	現状値2019(R1)		R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
	国語・算数(数学)の授業が「よくわかる」、「どちらかといえばわかる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	国語	87.8%	87.9%				
算数			86.6%	90.0%				90.0%	100%
中学生		国語	83.9%	81.8%				85.0%	0%
		数学	84.3%	81.5%				87.0%	0%

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

活動指標	現状値2019(R1)		R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
	通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の指導計画を保護者の同意のもとに作成している割合	小学生	72.7%	86.1%					
中学生		29.9%	25.0%					50.0%	0%
コンピューターなどのICTを授業で週1回以上活用したと答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	37.6%	60.7%					100.0%	37.0%
	中学生	12.1%	43.2%					100.0%	35.4%

4. 取組内容(令和3年4月～令和4年3月)

(1) 学力の向上

- ・各学校において、「魅力ある学校づくり」をベースにして、「学力向上3本の矢」や「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に取り組み、学力向上に努めました。
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査を実施(小6・中3対象)しました。(年間1回)
- ・みえスタディ・チェック(①小4・中1、②小5・中2対象)を実施しました。(①年間1回、②年間2回)
- ・「名張市学力・体力調査活用検討委員会」を実施しました。(年間3回)
- ・名張市「学習・生活アンケート」を実施(小4・中1対象)しました。(年間1回)
- ・名張市学力向上実践交流会を実施しました。(年間1回)
- ・なばりスタディ・チャレンジを実施(小3・小4・小6・中1対象)しました。(年間1回)

・学力向上便利ツールの活用を促進するため、職員用全体フォルダの中の『学力宝箱』内の学力に係るデータを更新し、充実を図りました。
・教員の授業力を高め、学力向上を図るために、「主体的・対話的で深い学び」や「授業のユニバーサルデザイン」の視点からすべての子どもにとってわかりやすい授業づくりに焦点を当てた研修講座を開催しました。(9回)

(2) 特別支援教育の推進

・通常学級に在籍する児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする全児童生徒に対する支援について、教職員対象の研修会及び自主研修会を開催しました。(研修会 年間1回、自主研修会 年間2回)
・校内支援力の強化を図るため、チーフコーディネーター、教育センター教育専門員、特別支援教育スーパーバイザー等による学校巡回を実施しました。(特別支援教育スーパーバイザー年間6回3校巡回)
・特別支援教育担当者研修(2回)、特別支援にかかわる課題研修(2回)を実施し、子どもの特性や教育的ニーズに応じた支援の方法や就学前から卒業までの切れ目のない支援体制の整備等についての研修会を開催しました。

(3) キャリア教育の充実

・9年間の学びの系統性・連続性を確保するため、小中一貫教育カリキュラムに基づく実践の推進を図りました。
・全中学校の職場体験学習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一昨年に続き未実施となりましたが、ゲストティーチャーによる学習を通して職業に関する知識や技能を身につける取組を進めました。
・学びのプロセスを記述し振り返ることを通して、系統的なキャリア教育を図るため、各学校でキャリア・パスポートを作成・活用しました。

(4) GIGAスクール構想の実現による学習活動の充実

・GIGAスクール構想に基づき配備した学習用タブレット端末を、授業の中で効果的に活用できるよう教職員対象の研修講座及び自主研修を開催しました。(研修講座 年間5回、自主研修 年間5回)
・学校でのICT活用をさらに推進するため、名張市GIGAスクールアドバイザーが市内小中学校を巡回しました。
・教職員のICT活用能力向上のための自主研修講座を開催しました。(年間5回)
・全小中学校において、個別最適化された学習をめざし、Edtech事業を活用したAI型のデジタルドリルを導入運用を1年間実施しました。
・学習用タブレット端末を使った家庭学習や、緊急時のオンライン授業が自宅でもできるようモバイルルータの貸し出しを開始しました。

(5) 就学前教育の充実

・「幼児教育アドバイザー」を4名配置し、全幼稚園・保育所(園)・認定こども園を訪問しました(年3回)。その中で就学前段階から小学校への円滑な接続を見据えた保育・教育について、指導・助言を行いました。
・元小学校教員の「ピカ1先生」2名が市内全幼稚園・保育所(園)・認定こども園をそれぞれ年間3回程度巡回しました。また、就学前段階の幼児に小学校教育への見通しがもてるような保育活動を行いました。

(6) グローバル人材の育成

・外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するために、ALTを活用し指導体制の充実を図るとともに、ICT機器を活用するなど指導方法の工夫を図りました。(市内5中学校にALT2名、市内14校小学校ALT3名)
・小中一貫英語教育カリキュラムに基づき、小中学校の教職員間で義務教育9年間でめざす子どもの姿の共有を図りました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1) 学力の向上

・令和3年度全国学力・学習状況調査を実施し(小6・中3対象)、各学校において結果分析を行い、強み・弱みの把握、検証を踏まえた授業改善等に取り組むことができました。
・「授業内容はよくわかりますか」の質問に対して、肯定的な回答割合が、全教科で約8割を超えており、経年で見ても増加傾向です。名張市は全国と比較すると、全教科で上回りました。今後も、子どもたちが“わかる”と実感できる授業づくりに努め、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図り、学力向上につなげていきます。
・約8割の児童生徒が「授業が分かる」と回答していますが、全国学力・学習状況調査の問題の中には平均正答率が全国より低い調査項目もあります。学習内容の定着に結び付く指導方法の研究等による授業改善を進め、さらなる学力の向上をめざしていく必要があります。
・家庭学習が「1時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国平均より低い傾向が続いています。学校での学習内容を定着させるために、家庭学習は重要な意味をもちます。学校の宿題だけではなく、自主学習にも意欲的かつ継続的に取り組めるよう、ICT等も有効に活用するなど、学校と家庭が連携を図りながら取り組んでいく必要があります。

・読書時間が「30分以上」の割合も同様に低い結果となっています。活字離れが進んでいる昨今、語彙力を増やし、読み書きの力をつけるために読書はとても有効です。学校では、名張市子ども読書活動推進計画に基づき、朝読書や読書週間の期間を設けるなど工夫して取り組んでいます。今後更にPTAや学校運営協議会等の学校関係組織とも連携を深め議論するなど、学校・家庭・地域が課題を共有する中で、読書に取り組む機会を増やしていく必要があります。

(2) 特別支援教育の推進

・名張市特別支援教育システムを有効に活用するとともに、個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用して支援を進めている事例が増加しており、保護者と連携しながら支援を進めることができました。

・今後も特別支援教育に係る研修会や巡回指導を通して教員のスキルアップを図ります。

・通級による指導を受けている児童生徒を含め、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒についての支援の充実に努めます。

・特別支援学級の児童生徒の増加や、通常学級における特別な支援の必要な児童生徒の増加の実態から、教職員が特別支援教育について学ぶ必要性も増しています。障がいのある子どもの教育的ニーズを的確に把握し、早期からの一貫した指導と支援の充実に努めるために、引き続き教職員の研修を充実させるとともに、関係諸機関と連携した取組が必要です。

(3) キャリア教育の充実

・全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答した児童生徒の割合は、小中学校とも全国平均より高く、前回調査より増加しています。今後も、9年間を見据えた「キャリア教育カリキュラム」の活用・改善を図り、一人ひとりのキャリア形成と自己実現に向け系統的な指導を行っていく必要があります。

(4) GIGAスクール構想の実現による学習活動の充実

・小中学校でのICT活用は大きく進みましたが、端末をより効果的に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をめざす必要があります。また、令和の日本型教育の構築をめざし、学校DX(デジタルトランスフォーメーション)を進める必要があります。

(5) 就学前教育の充実

・幼稚園・保育所(園)・認定こども園の教員・保育士が、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を意識して、保育・教育を行うことができるようになりました。

・ピカ1先生の活動により、就学前段階の幼児が小学校への不安を取り除き、期待感を高めることができました。

・「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づいた実践を更に市内各園に広げるとともに、とくに教職員への啓発を充実させ、幼児教育・保育と学校教育の円滑な接続を実現させていく必要があります。

(6) グローバル人材の育成

・ALTと直接コミュニケーションをとることで、ネイティブの発音に触れ、英語への興味関心を高めるとともに資質能力を育成につなげていくことができました。さらに小学校の外国語活動、外国語科の充実に向けて、小学校に英語科専門教員の配置、中学校英語科専門教員の小学校への派遣を進めていく必要があります。

・小中一貫英語教育カリキュラムやふるさと学習「なばり学」のカリキュラムを活用し、9年間の義務教育でめざす子どもの姿を共有していく必要があります。

・異なる文化や多様な価値観をもつ人々と互いに尊重し合い、協働していく力を身につけ、身近な地域をはじめ地球規模の課題についての学習や郷土学習、地域の特色や産業を題材とした学習を推進していく必要があります。

基本目標2 豊かな人間性の醸成

担当室 学校教育室・教育センター・
文化生涯学習室・図書館
〔人権・男女共同参画室〕

1. めざす姿

子どもは、その年齢に応じた、生命や人権を尊重する態度、公共心や規範意識、他人を思いやる心、感動する心が育まれています。
また、子どもは、日常的に読書に親しむとともに、郷土の自然や文化、歴史に親しみ、郷土を愛し、郷土を誇りに思う心が育まれています。

2. 主な取組

- (1) 人権・同和教育、道徳教育の推進
- (2) ふるさと学習「なばり学」の推進
- (3) 持続可能な社会の創り手となるための教育の推進
- (4) 読書活動・文化芸術活動の推進

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

成果指標	現状値2019(R1)		R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
人が困っているときは、進んで助けていますかという質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	39.3%	43.8%					43.0%	100%
	中学生	35.4%	38.7%					39.0%	91.7%

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

活動指標	現状値2019(R1)		R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
今、住んでいる地域の行事に参加していますかという質問に「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	64.4%	65.6%					68.0%	33.3%
	中学生	48.8%	50.0%					51.0%	54.5%
平日、学校の授業時間以外に「1日当たり30分以上の読書をしている」と答えた児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	37.1%	34.3%					40.0%	0%
	中学生	26.2%	25.2%					31.0%	0%

4. 取組内容(令和3年4月～令和4年3月)

(1) 人権・同和教育、道徳教育の推進

- ・児童生徒につけたい力を明確にし、発達段階に応じた学習内容を位置づけるために、各教科と関連付けた人権教育カリキュラムの活用と改善を図りました。
- ・学校・人権同和教育推進委員会を開催しました。(年間5回)
- ・中学校区別研修会を実施しました。(年間2～3回) コロナ禍のため、集合してできない場合はオンラインでの開催等工夫して行いました。
- ・中学校区別に部落問題を考える小学生のつどいを開催しました。集合してできない場合はオンラインやロノートを活用して開催しました。
- ・名張市「ヒューマンライツ」をオンラインで開催しました。(年間1回)
- ・人権・同和教育担当者研修会と人権・同和教育管理職研修会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止しました。(各1回)
- ・「特別の教科 道徳」の指導方法の充実を図るため、名張中学校を教育研究推進校として指定し研究を深めるとともに、市内小中学校等に向け研究成果を発信しました。また、道徳教育推進教師を対象とした道徳教育研修会を開催しました。

(2) ふるさと学習「なばり学」の推進

- ・ふるさと学習「なばり学」の推進が図られるよう、ふるさと学習「なばり学」担当者会を開催しました。(年間1回)
- ・ふるさと学習「なばり学」の実施状況を把握するため、教育委員会担当者と学校ボランティア室の専任コーディネーターが全小中学校を巡回し、取組の推進を図りました。
- ・ふるさと学習「なばり学」の研修講座で、「なばり学」の活用事例や資料集に掲載している現地を見学することを通して教職員の理解を深めました。
- ・「なばり学」資料集に掲載されている施設等を訪問し、資料集の活用の仕方や、「なばり学」に関する歴史や名所について学ぶ研修講座を開催しました。また、教職員のふるさと学習「なばり学」への理解を深めました。(年間1回)
- ・夏季休業中に子どもたちを対象とした「なばり学自由研究相談会」を実施し、普及啓発を行うとともに、ゲストティーチャーの活躍の場を広げました。

(3) 持続可能な社会の創り手となるための教育の推進

- ・各学校において、「持続可能な開発のための教育」であるESDの視点を取り入れた教育を教科や総合的な学習の時間を通して行い、体験学習から問題解決に必要な資質や能力を育む取組を行いました。

(4) 読書活動・文化芸術活動の推進

- ・学校司書が全小中学校を巡回し、学校図書館の運営・管理と教育活動の支援等を行いました。
- ・図書館教育担当者会を開催し、読書活動の活性化に向けて各学校の取組について実践交流を行いました。年間2回を予定していましたが、内1回は新型コロナウイルス感染拡大のため開催できませんでした。そのため、各学校に実践レポートを配付書面で交流しました。
- ・子どもの読書への関心を高め、家庭で大人と子どもと一緒に読書を楽しみ、コミュニケーションを深める読書活動「家読(うちどく)」を推進するため、「としょだより」を全児童生徒へ配布しました。(年間3回)
- ・司書教諭、学校司書、学校図書館ボランティア、一般の方を対象に、市立図書館と協働し研修講座を実施しました。(年間2回)
- ・文化庁主催「文化芸術による子供の育成総合事業」を活用し、「芸術家の派遣事業」「巡回公演事業」を実施し、子どもたちが本物の芸術に触れる機会を持ちました。
- ・小学校では、文化的行事に係る予算を活用して講師を招いて学習を行ったり、芸術鑑賞を実施したりしました。
- ・名張市郷土資料館において体験教室(火起こし、勾玉・銅鏡づくり等の古代のモノづくり、古代人のコスプレ、本物の土器にタッチ、紙漉き体験)を実施しました。(体験参加者128名)
- ・市内の小中学生を対象に夏休みの課題として、「ふるさと」、「名張の風景」、「名張の自然」を描いた絵画や「ふるさと名張」に関する自由研究について、応募あった全作品を10月から約1ヶ月間、名張市郷土資料館で「ふるさと名張自慢」作品展として展示しました。【応募総数】絵画の部:142点、自由研究の部:45点)
- ・名張市郷土資料館において、小学生の施設見学や、ふるさと学習「なばり学」の学習の受け入れを行いました。(年間4回)
- ・市民センター等の歴史講座への講師派遣や週末教育事業での体験教室等の出張講座を行いました。(年間7回)
- ・伝統文化の伝承や発展のために活動している子どもたちが練習を重ね、毎年11月の第1日曜日に、開催される『観阿弥祭』には名張子ども狂言の会と名張こども能楽囃子教室が出演しました。また、毎年3月に開催される『名張子ども伝統芸能祭り』に、古典芸能を学ぶ子どもたちが出演予定でしたが中止となりました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1) 人権・同和教育、道徳教育の推進

- ・部落問題を自分の問題として捉え、正しい認識を持ち、実践行動力のある児童生徒の育成ができるように研修を深めました。
- ・中学校区別の話し合いでは幼小中の連携を図るとともに、各校区の課題を解決できるよう小中一貫教育を意識した取組を進めていく必要があります。
- ・人権教育カリキュラムを活用し、自他の人権を守るための行動ができる力を育てるとともに、道徳教育を通して相手を思いやる心を育み、命を大切にし規範意識を持って行動できる子どもの育成をめざしていきます。
- ・自他を大切にしたい思いやりの気持ちや規範意識、生命尊重の精神などの道徳性を一層養うため、「特別の教科 道徳」を要とした学校教育全体で行う道徳教育の指導方法をさらに充実させていく必要があります。
- ・子どもたち一人ひとりの自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、多様性を認め、他者を思いやり尊重す

る心の育成、規範意識やよりよい人間関係を築く力を一層育むことが必要です。学校では、児童生徒が現実の交流の中で関係を築き、支え合い成長し合う場として重要な役割を担っていることが、コロナ禍で再確認されました。そのため、よりよく生きるための基盤となる道徳性や社会性を養うなど、様々な制約や制限の中で工夫した体験活動の実施等が大切です。

(2) ふるさと学習「なばり学」の推進

- ・学校ボランティア室の専任コーディネーターが授業支援のための各授業プラン例や映像コンテンツを作成し、教育センターの教育活用ポータルに掲載して教職員が活用できるようにしました。
- ・映像コンテンツのさらなる充実やゲストティーチャーの活躍の場をより多く作っていくことなど、引き続き、ふるさと学習「なばり学」の推進を通して地域の方の思いや願いに触れる学習を進めていきます。ゲストティーチャーについては、「現地学習」や「なばり学自由研究相談会」のほか「週末教育事業」における講師等、活躍の場を広げます。
- ・引き続き、学習資料集を活用し名張の自然や歴史、伝統、人などから生き方を学ぶきっかけにしていけます。また、地域行事への参加が年々減少しているため、地域に対する思いに触れることによって、参加を促進していく必要があります。

(3) 持続可能な社会の創り手となるための教育の推進

- ・ESDの視点を持ち授業改善を行うとともに、地域と学校が連携し、生命や人権を尊重し、公共心や規範意識を持ち、他人を思いやる心、郷土愛がより育つように取り組んでいきます。

(4) 読書活動・文化芸術活動の推進

- ・研修講座を実施し、読み聞かせや著作権等、子どもの読書活動推進のための具体的な技術について学ぶことができました。(のべ47名)
- ・読書の楽しさを知ると共に、学習が深まり読書の幅を広げる機会を充実させるため、専門的な知識と技術を持つ学校司書が小中学校を巡回しています。
- ・図書館教育担当者会を開催し、各学校の取組について実践交流を行いました。(第2回は書面による実践交流) 今後も各学校の担当者が、図書館教育の推進者として積極的に取組を進めていくために、図書館教育担当者向けの研修講座の開催や学校司書との連携をさらに深めていく必要があります。
- ・4月の「子ども読書の日」に関わる図書館だよりでは、「家読(うちどく)のススメ」と題し、家読の啓発を行いました。今後も家庭で大人と子どもと一緒に読書を楽しみ、コミュニケーションを深める家読を進めるために、啓発リーフレットを作成配布するなど、継続して取組を進めます。
- ・「文化芸術による子供育成総合事業」では、芸術家の専門的なアドバイスを受けたり本物の舞台芸術に触れたりすることができ、豊かな心を育むことができました。
- ・文化庁主催の文化芸術事業を活用し、児童生徒が日頃触れることのない本物の表現の世界を体感し、豊かな創造性を育む教育を推進していく必要があります。
- ・郷土の歴史文化に興味を持ち、郷土を愛し誇りに思う心を育むため、市内の全小学生が在学中に一度は郷土資料館を訪れることにつながるよう、展示等の事業を工夫していく必要があります。
- ・子どもたちが舞台上で発表するという目標を持ち、練習を重ねることが、古典芸能の普及につながるものと考えており『名張子ども伝統芸能祭り』を毎年開催します。また、大人たちで構成する謡曲団体とともに『観阿弥祭』に出演していただき、伝統文化への意識を高めるなど、能楽振興を通して地域の文化的活動を推進します。

基本目標3 健やかな体の育成

担当室 学校教育室・教育センター・
市民スポーツ室・教育総務室
〔健康・子育て支援室〕

1. めざす姿

子どもは、自らの健康を適切に管理・改善するとともに、進んで運動に親しみ、たくましく生きるための健康と体を備えています。
また、保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小中学校は関係機関と連携しながら、子どもの実態に応じた健康・食教育を推進しています。

2. 主な取組

- (1)健康教育の推進
- (2)体力向上に向けた取組の推進
- (3)食育の推進

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

成果指標	現状値2019(R1)		R3 実績	R4	R5	R6	R7	R7 目標値	進捗率
朝食を毎日食べている児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査より	小学生	95.3%	95.4%					97.0%	5.9%
	中学生	96.1%	93.0%					97.0%	0%

(各数値は全国学力・学習状況調査 質問紙調査における「食べている」「どちらかといえば食べている」の両方を含む)

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

活動指標	現状値2019(R1)		R3 実績	R4	R5	R6	R7	R7 目標値	進捗率
総合型地域スポーツクラブの設置数	5クラブ		5クラブ					7クラブ	0%
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価(5段階)がABCとなった児童生徒の割合【小5・中2】	小5	男子	72.9%	67.5%				75.0%	0%
		女子	73.3%	72.4%				75.0%	0%
	中2	男子	77.6%	71.9%				80.0%	0%
		女子	88.6%	88.1%				90.0%	0%

4. 取組内容(令和3年4月～令和4年3月)

(1)健康教育の推進

- ・名賀医師会、伊賀歯科医師会、伊賀薬剤師会と福祉子ども部、教育委員会、学校が連携し、学校保健の円滑な遂行及び向上を目的とする、名張市立学校保健連絡協議会を開催しました。(年間1回)
- ・健康教育の推進のため、学校からの要請に応じて、保健師を派遣し、性教育の授業を実施しました。(中学校4校14回、小学校4校5回)
- ・生活習慣病予防の一環として保健師が出前トークを行いました。(小学校2校2回)
- ・学校歯科医や歯科衛生士に協力いただき、歯や口の健康を目的とする歯磨き指導等を実施しました。
- ・小中学校において生活リズムがぐずれやすい長期休業期間にチェックシートを活用し、生活習慣の確立をめざして取り組みました。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎日の検温や体調を管理するとともに、手洗い指導等を行いました。

(2) 体力向上に向けた取組の推進

- ・市内小学3年生の児童、中学1年生の生徒を対象に新体力テストを実施し、その結果分析をもとに各学校において体力推進計画を作成し体力向上に向けた授業改善及び体力向上の取組を行いました。また、名張市学力・体力調査活用検討委員会(年間3回)にて名張市全体の分析・検証を行いました。
- ・各学校で作成した体力推進計画に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた中で、児童生徒の体力向上に努めました。
- ・保健体育代表者会(年間4回)において、各学校の全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テスト結果、中学校区ごとのデータ集計の結果を分析し、強みと弱みを把握し、研修会や実技講習会を実施することで、新体力テストで課題になった部分について重点的に研修を深めました。また、子どもの体力に係る課題を共有し、効果的な指導のあり方を研究しました。

(3) 食育の推進

- ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、食育担当者会を実施することができませんでしたが、市内幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小中学校の食に関する指導の全体計画を配布し各学校・園の取組を周知する機会としました。
- ・各学校において、栄養教諭や食育担当者が各教科担当と連携し、朝食の大切さや栄養バランス等について保護者への啓発を行いました。
- ・第2次名張市ばりばり食育推進計画に基づき、関係部署と連携を図るとともに、食育の推進に向けた取組を進めました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1) 健康教育の推進

- ・朝食摂取率(朝食を毎日食べていますかという質問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合)は、目標を達成することができませんでした。朝食を食べることの大切さについては、健康・子育て支援室とも連携をしながら、今後も引き続き、児童生徒の意識を向上させる取組を積極的に推進してまいります。また、「早寝早起朝ごはん」の生活習慣確立のためのチェックシートを活用し、子どもへの意識付けはもちろん、市の広報等の媒体も活用し、保護者への啓発を引き続き行ってまいります。

(2) 体力向上に向けた取組の推進

- ・中学校ブロック別に小中9年間の系統的な指導を意識し、体育の授業改善及び体力向上に向けた取組を実施し、小学校から中学校への滑らかな接続を行います。
- ・コロナ禍の影響もあり、全国の傾向と同様に、名張市全体でも全国体力・運動能力、運動習慣等調査による総合評価(5段階)がABCとなった児童生徒の割合【小5・中2】が低下しており、新体力テストの結果をもとに学校ごとの課題を明らかにし、その課題解決に向けた方策を保健体育代表者会で協議していきます。
- ・課題解決に向けた研修講座を実施し、得られた知識や指導技術を有効に活用し、授業改善を行うことで子どもの体力の向上に努めます。
- ・部活動は専門的な指導の充実と教員の負担軽減を図っていく必要があり、部活動の地域移行への検討に向けて、地域人材の活用及び地域スポーツ団体との連携など、接続可能で、子どもにとって望ましい活動となるよう方策を考えていく必要があります。

(3) 食育の推進

- ・小学校では、栄養教諭と連携をとりながら、中学校では食育担当教員を中心に学習を進め、特に、体験活動を通じた食育の取組が子どもたちへの食への関心を高める機会になっています。
- ・今後も、子ども自身が自分の食生活を振り返り、見直すことで、食と健康を意識し、食を大切にできる力を育めるよう、家庭と連携した取組を進めていきます。

基本目標4 活力ある学校づくり

担当室 教育センター・学校教育室
文化生涯学習室

1. めざす姿

教職員は、研修によって質の高い授業力・指導力を身に付け、互いに学び合い、いきいきと子どもの教育に当たっています。また、子どもや保護者との間に深い信頼関係を築いています。
学校は、学校運営や教育活動について家庭・地域に積極的に情報発信し、保護者や地域住民は、いつでも学校や子どもの様子を知ることができます。
学校と家庭、地域は、学校の強み、弱みを共有し、一丸となって、課題の解消に努めています。

2. 主な取組

- (1) 教職員が働きやすい環境づくり
- (2) 学校の組織力の向上
- (3) 教職員の指導力の向上

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

成果指標	現状値2019(R1)	R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
教育センターで開催した研修講座のアンケートで「A(満足)、B(どちらかという満足)、C(どちらかという不満)、D(不満)」のうち、「A(満足)」と回答した参加者の割合	81.4%	61.2%					84.0%	0%

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

活動指標	現状値2019(R1)	R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
学校生活支援ボランティアの登録者数	904人	1114人					1000人	100%
教職員の年次有給休暇の1人当たりの年間取得日数	10.5日	13.1日					15日	57.8%

4. 取組内容(令和3年4月～令和4年3月)

(1) 教職員が働きやすい環境づくり

- ・学校生活支援ボランティアによる、登下校の見守りや環境整備等、各学校や地域の状況に応じた支援を行いました。(登録者数1,114名)
- ・退職教職員が学校教育支援員として、教職員へのアドバイスや管理職を含む教職員からの相談、教科の指導支援等を行いました。(登録者数31名)
- ・名張市小中学校長会議や夏季の学校訪問における教職員との懇談等を通じて、業務改善や働き方改革に向けて、教職員の意識の向上を図りました。
- ・教育委員会と各小中学校で運用されているグループウェアのタイムカード機能を活用して、個々の教職員の勤務時間を適正管理し、時間外勤務の実態を把握するとともに、働き方について教職員の意識改革を一層進めるよう促しました。また、「名張市立小中学校における教育職員の在校等時間の上限に関する方針」を定め、教職員の時間外勤務削減に努めました。
- ・校務支援につながる情報教育環境の整備や指導要録・通知票の電子化等の整備を進めるとともに、教育委員会からの配布物を精選し、校務削減に努めました。
- ・名張市職員安全衛生委員会の学校部会での話し合いの内容について校長会議で周知する等、学校での取組を支援しました。

- ・相談業務を行う関係機関が集まり、情報交換・共有を行うことで、学校現場により適切な対応を行うことができました(年12回)。
- ・各小中学校では、これまで行っていた学校行事を見直し、実施形態を変更したり、内容を精選したりしました。中学校区で行っていた行事等についても同様に見直しました。また、全小中学校に配備した留守番電話機能を活用して、勤務時間外における保護者等からの問い合わせや電話対応等の業務を削減しました。
- ・国及び県の事業を受けてスクール・サポート・スタッフを全小中学校に配置しました。教材等の印刷や物品の準備・整理、新型コロナウイルス感染症対策として施設・設備の消毒作業等に従事し、教職員の負担軽減を図ることができました。
- ・小中一貫教育、コミュニティ・スクールを推進し、保護者・地域住民の理解と協力を得て、学校の働き方改革につながる取組を進めました。
- ・名張市立小中学校職員に係る過重労働による健康障害防止のための対策及びストレスチェックの実施、労働基準法第36条に基づく協定を締結しました。

(2) 学校の組織力の向上

- ・学校の管理職やミドルリーダー等を対象にした学校経営や組織づくりに関する研修講座を実施しました。(年間6回:オンデマンド研修4回、集合研修2回)
- ・コミュニティ・スクールの推進に向けて、チーフコーディネーターと事務局担当職員による学校訪問を実施しました。コミュニティ・スクールの進捗状況や、学校支援ボランティアの活動状況や課題についての把握に努めました。(年間2回)また、学校運営協議会の事前・事後相談に応じ、その時々々の課題に応じたきめ細やかな支援に努めました。
- ・コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育をめざして、学校は学校運営協議会の充実・活性化を図り、地域住民・保護者等の参画を得て、課題を共有する中で信頼関係の構築と学校の組織力の向上に努めました。

(3) 教職員の指導力の向上

- ・国や県の動向や市の教育課題に対応した研修講座を52講座実施しました。新型コロナウイルス感染拡大のため11講座が中止となりましたが、14講座についてオンラインで開催しました。各研修ごとにアンケートを実施し、教職員のニーズに応じた講座や自主研修講座を新設しました。
- ・経験年数5年目までの若手教員を対象とした、授業づくりや学級づくりの基礎基本等を学ぶための若手教員スキルアップ研修講座を実施しました。(年間6回:オンデマンド研修1回、集合研修5回)
- ・GIGAスクール構想による1人1台タブレット端末導入に関わり、夏季研修講座(年間2回)、タブレット端末等ICT活用講座(年間5回:オンライン3回、集合2回)を開催し、教職員のICT活用能力向上を図りました。
- ・市の学校教育研究推進校4校を指定して研究を進めました。教職員の授業改善を促進するため、学校長の要請に応じて指導主事が学校を訪問し、指導・助言を行いました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1) 教職員が働きやすい環境づくり

- ・令和3年度の学校生活支援ボランティアの登録数は1,114名となり、目標値である1,000名を大きく上回っています。今後も各学校において様々な支援活動が、教職員とボランティアによる協働で行われるよう、引き続き取組を進めています。
- ・令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりましたが、今後も学校生活支援ボランティア研修交流会を継続実施し、ボランティアの資質向上を図ります。
- ・時間外勤務については、小中学校の教職員の1人あたり月平均が、平成29年度は23.9時間、令和3年度は17.3時間と、5年間で大きく削減されました。
- ・休暇(年休+特休)の取得については、小中学校の教職員の1人あたり月平均が、平成29年度は1.64日、令和3年度は1.79日とわずかながら増加しました。更なる取得率向上につながるよう、働き方改革を進める必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として整備が進んだりリモート会議等を今後も積極的に活用し、働き方改革につなげていく必要があります。
- ・教育委員会主催の会議等精査、長期休業中の学校閉校日の設定等、今後も学校と教育委員会が協働して業務の適正化や休暇取得促進等、学校の働き方改革をさらに推進するとともに、学校の安全衛生委員会を機能させ、更に実効性のあるものにする必要があります。

(2) 学校の組織力の向上

- ・市内全ての小中学校の学校運営協議会のさらなる活性化・充実が求められています。学校運営の質の向上をめざして、学校の課題解決に取り組んでいきます。
- ・市内小中学校はわかる授業づくりをはじめとする授業改善と学力向上、自他を尊重した共感的な人間関係の育成及び生命を大切にする教育、生徒指導や特別支援教育の充実等、多様な課題やニーズに対応することが求められています。そのため、管理職がリーダーシップとマネジメント力を発揮し、ミドルリーダーや若手教員の人材育成をはじめ、コミュニティ・スクールを活用するなど、地域住民の活力を得ることにより、学校総体で学校の組織力向上をめざす必要があります。また、そのためには、児童生徒、教職員、地域住民等との信頼関係を一層深め、連携・協働していく必要があります。
- ・学校の働き方改革をめざして、管理職のリーダーシップの下、ベテランや中堅の教職員が若手教職員にアドバイスするなど、協働して対応していく仕組みや学び合う職場環境をつくり、教職員の意識改革を一層進める必要があります。

(3) 教職員の指導力の向上

- ・研修講座のアンケートでは、「A(満足できる)」、「B(どちらかというと満足)」を合わせた割合は、96%以上と昨年度より高い満足度を得ているものの、「A(満足できる)」の割合は、11ポイント減少しています。コロナ禍の開催のため、本会場とサテライト会場での開催となり音声聞き取りづらいう状況が生じたこと、一部参加者のニーズに合わなかった講座があったことが考えられます。引き続き、国や県の動向、市の教育課題や教職員のニーズを把握し研修講座を計画します。また、教職員へ研修講座の研修内容をわかりやすく案内していきます。
- ・今後も新規採用者が増加することが予想されるため、若手教員育成のための研修講座を充実させていきます。
- ・教育委員会が指定する学校教育研究推進校4校のうち、令和3年度は2校が研究の成果を発表しました。研究テーマは、喫緊の市の教育課題であり、研究に取り組むことにより学校内の教職員の授業改善・指導力向上等の成果が表れています。

基本目標5 安全で安心な教育環境の整備

担当室 教育総務室・学校教育室
教育センター・文化生涯学習室

1. めざす姿

子どもは、地域に見守られ、安全に登校し、整備された学校施設の中で、快適に学校生活を送っています。
また、居心地のよい学校、学級づくりが行われ、子どもは安心して、いきいきと楽しく学校生活を送っています。
学校、家庭、地域が連携、協働し、地域全体で学校を支える環境が整備され、子どもは、地域の中で健やかに成長しています。

2. 主な取組

- (1)子どもの安全・安心の確保
- (2)いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり
- (3)居心地の良い集団づくり

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

成果指標	現状値2019(R1)	R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合 ※市民意識調査より	66.8%	67.1%					68.0%	25.0%

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

活動指標	現状値2019(R1)	R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
学級満足度調査による満足群に いる児童生徒の割合	66.5%	69.0%					70.0%	71.4%
小中学校の老朽施設(棟)の整備 数(延べ値)	21施設	21施設					28施設	0%

4. 取組内容(令和3年4月～令和4年3月)

(1)子どもの安全・安心の確保

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、児童生徒が使用する手洗いの一部に、自動水栓の設備を設置しました。
- ・学校における新型コロナウイルス感染症対策は、文部科学省「学校衛生管理マニュアル」等を参考に、地域や保護者の協力を得ながら感染症対策を行い、「学びを止めない」という観点で学校教育活動を進めることができました。また、学級に複数の感染者が出た時には、その学級を対象にPCR検査を実施し感染拡大を防ぐとともに、安心して学級が再開できるようにしました。

(2)いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり

- ・地域、学校、警察、市民団体等で構成する「名張少年サポートふれあい隊(143名10班体制)」を組織し、夜間のパトロール活動に取り組みました。また、青少年補導センターとの合同で不審者対策を目的としたパトロールを実施しました。(夜間パトロール:のべ235名・合同パトロール96名が参加)
- ・青少年補導センターによる街頭補導や、安全パトロール、下校支援、青少年悩み相談等を行いました。
- ・子どもを守る家の普及による不審者対策に取り組みました。(協力者件数2, 120件)
- ・市内小中学校、高等学校や警察をはじめとする関係機関が集まり、青少年の非行や問題行動等についての情報交換・情報共有を行う校外生活指導協議会を実施しました。(年4回)
- ・青少年の相談業務について関係機関が集まり、情報交換・情報共有を行う相談機関打ち合わせ会を実施しました。(年11回)
- ・各学校の生徒指導體制の充実と中学校区及び学校間の連携・協働を図るため、生徒指導推進委員会を開催しました(年間6回)。

・いじめの未然防止、早期発見、迅速で適切な対応のため、全小中学校で、「名張市いじめ防止基本方針」に基づいた「学校いじめ防止基本方針」の点検と見直しを行いました。
・学校の教育相談体制の充実を図るため、教育相談担当者会を年度初めに開催するとともに、全小中学校の児童生徒に対して、学期に1回以上のいじめアンケートを実施しました。

(3)居心地の良い集団づくり

・居心地の良い集団づくりをめざし、全小中学校の児童生徒を対象に、学級満足度調査(Q-U調査)を実施し(年2回)、各学校で調査結果を基に分析・検証を行うとともに、指導主事が学校の校内研修において指導・助言しました。
・子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、各中学校区に1名のスクールカウンセラーを配置し、支援体制の充実を図りました。
・適応指導教室では、子どもの実態と課題に応じて、意欲や自身を高めることができるように体験活動を行いました。(年間9回)
・適応指導教室相談員が学校訪問を行い、学校との連携を深めました。(月1回)適応指導教室と学校が情報共有し、不登校児童生徒への支援の方針を一致させることにより、一人ひとりの子どもに応じた適切な支援を行いました。
・適応指導教室卒業生と通級生の交流会を行いました。(18名参加)また、相談員が卒業生の進学先を訪問し、卒業後の学校生活の様子等について聞き取りを行いました。
・保護者や教職員からの相談について、教育センターに「教育よろず相談」を設置し、様々な知識や経験を備えた教育専門員や臨床心理士、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる相談体制の充実を図りました。また、定期的に学校訪問を実施し、学校の状況を把握するとともに課題の改善や解決を図りました。(年間2回の定期訪問と随時訪問)
・名張市地域福祉教育総合支援ネットワークのエリアディレクターが、コーディネートをして学校関係者と関係機関による情報交換や打合せを必要に応じて実施するとともに、学校訪問を通して、支援が必要な児童生徒と関係機関を接続するなどの支援を行いました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1)子どもの安全・安心の確保

・各学校において新型コロナウイルス感染症対策を充分に行う中で、学校教育活動を継続して実施することができました。今後は、これまで実施できなかった行事等を感染症対策を講じながら再開していきます。
・災害時や新型コロナウイルス感染症拡大等の非常時においても、これまでの感染症対策の経験を生かして、子どもたちの安全・安心を確保しながら学びを継続していく必要があります。
・施設の老朽化が進んでいることから、今後、安全・安心な教育環境の維持向上のため、計画的な老朽施設の整備とともに、トイレの洋式化やユニバーサルデザインに適応した施設整備を進めていきます。

(2)いじめや問題行動を未然に防ぐ学校づくり

・いじめを未然に防ぐ取組や、いじめの早期発見、早期対応の取組の推進のため、学級担任をはじめとした教育相談を計画的に推進していくことや、アンケートの定期的な実施、学校間の連携など、学校がより組織的に取組を進めていく必要があります。
・青少年の非行件数は、ここ数年減少傾向にあります。不審者情報の増加やSNSによる青少年が被害者となる事案が全国的に発生しています。引き続き警察や学校、地域、関係機関・団体等と連携を密にすることで、子どもたちの現状把握に努め、子どもたちを見守る体制を一層強化していく必要があります。
・地域ぐるみで子どもを守る取組として「子どもを守る家事業」の普及による不審者対策や「名張少年サポートふれあい隊」による夜間パトロールを引き続き行い、子どもを非行や犯罪から守る体制の充実・強化に努めます。
・名張少年サポートふれあい隊や青少年補導センター、警察、学校等の関係機関・団体間の情報の共有に努め、不審者情報への迅速な対応や連携を密にして、子どもたちの安全・安心の確保に取り組みます。
・校外生活指導協議会、相談機関打ち合わせ会等の中で、子どもたちにかかわる学校や関係機関が一堂に会して情報交換や情報共有を行うことで、問題行動や非行に至る背景を探り、その対応に活かしていきます。

(3)居心地の良い集団づくり

- ・学級満足度調査(Q-U調査)の調査結果の検証を通して、学校の「めざす児童生徒像」の実現に向け、指導方法の改善を図りました。今後も子どもにとって居心地の良い集団づくりをめざして、学級満足度調査等の客観的データを生かしながら取組を進めていく必要があります。
- ・各学校において学級間・学年間の取組の差をなくすため、一貫した指導・支援をしていくという体制づくりをはじめ、「チームとしての学校」として組織的な取組を推進できるよう情報共有等を図っていきます。
- ・「居心地の良い学級集団」づくりを基盤とした「学びに向かう集団」「学び合う集団」づくりの取組を引き続き進めていく必要があります。
- ・生徒指導体制及び教育相談体制の充実を図るために、スクールカウンセラーについては、今後も中学校区内の全ての学校に同一のスクールカウンセラーを配置できるようにしていく必要があります。
- ・不登校児童生徒数及び長期欠席児童生徒数は、全国、名張市ともに年々増加傾向にあります。学校への不応、家庭環境や成育歴等を背景とする課題も出てきています。「不登校対応マニュアル」等をふまえ、学校が組織的に、早期から、家庭と連携して取り組んでいくとともに、適応指導教室等の関係機関と連携を図りながら、児童生徒の社会的自立に向けた支援を引き続き行っていく必要があります。
- ・名張市地域福祉教育総合支援ネットワークエリアディレクターについては、子どもが抱える様々な家庭的な要因等をふまえ、引き続き、学校と連携した取組を進めていく必要があります。
- ・コロナ禍の影響もあり、児童生徒理解に基づいた指導及び支援の充実と、自他を尊重した人間関係の育成や対人関係スキルを身につける必要があります。
- ・適応指導教室が不登校についての相談機関として認知度が高まってきていることもあり、適応指導教室への相談件数が増加しています。今後も引き続き、適応指導教室と学校が情報共有し、支援の方針を一致させることにより、児童生徒の社会的自立や学校復帰をめざした取組を行うことが必要です。

基本目標6 家庭・地域との協働の推進

担当室 文化生涯学習室・教育センター
市民スポーツ室・学校教育室

1. めざす姿

保護者の子育てに対する不安や悩みに関する相談体制が整備されるとともに、「家庭における子育ては地域全体で応援していこう」という市民の意識が高まり、安心して子どもを産み、育てる環境が整っています。また、子どもは、温かい家庭において生まれ、望ましい生活習慣や規範意識を身に付けています。

2. 主な取組

- (1) 家庭の教育力の向上
- (2) 地域の教育力の向上

3. 進捗状況

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

成果指標	現状値2019(R1)	R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
目的をもって生涯学習に取り組んでいる市民の割合 ※市民意識調査より	41.7%	47%					47.0%	100%

$$\text{進捗率} = (\text{R3実績値} - \text{R1現状値}) / (\text{R7目標値} - \text{R1現状値})$$

活動指標	現状値2019(R1)	R3実績	R4	R5	R6	R7	R7目標値	進捗率
地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員となっている学校の割合	0%	0%					60%	0%
名張Kidsサポータークラブの登録者数	75人	65人					80人	0%

4. 取組内容(令和3年4月～令和4年3月)

(1) 家庭の教育力の向上

- ・各市民センター等において、生涯学習に関する事業は生涯学習リーダーが担当しています。この生涯学習リーダーをもって組織される名張市生涯学習推進協議会では、通常、市民センター間での情報交換等を実施し、生涯学習の推進を図っています。しかしながら、本年は、新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点により、会議を開催することができませんでした。
- ・各市民センターでは「名張市の地域における生涯学習推進に関する指針」に基づき、「豊かな子育て研修講座」を14講座開設しました。
- ・教育センターで実施している教育よろず相談では、相談内容が子ども理解や子どもへの関わり方、学校対応に対する相談等、年々多様化しています。教育よろず相談を窓口に、適応指導教室の「不登校相談」、子ども発達支援センターの「発達相談」、補導センターの「青少年悩み相談」と必要に応じて連携し、情報共有を図りながら対応しました。
- ・子育て支援研修会(年2回:集合1回、オンライン1回)及び「豊かな子育て研修講座」(年5回:集合4回、オンライン1回))を実施しました。「豊かな子育て研修講座」では、グループごとに受講者の思いや悩みを出し合える場を設定し、研修後や別日に個別の相談会も実施しました。

(2)地域の教育力の向上

- ・地域づくり組織による放課後子ども教室を実施しました。(4教室6小学校区)
- ・子どもが参加する行事などで、企画・運営のサポートをする青少年ボランティアのジュニアリーダーを養成する講座を実施しました。(2回9名参加、9名修了)
- ・ジュニアリーダー養成講座を修了した子どもたちの多くが所属するKidsサポータークラブの活動を支援しました。
- ・地域のボランティアが学校を支援する学校支援地域本部事業の取組を市内全小中学校(19校)において実施しました。

5. 検証(成果と今後の方向性)

(1)家庭の教育力の向上

- ・「子育て支援研修会」「家庭教育講座」について、新型コロナウイルス感染予防のためオンライン受講の体制を整えたことにより、子育て中や仕事がある保護者にとっても参加しやすくなりました。
- ・家庭教育スタッフ会議を実施し、家庭教育スタッフの力量を高め、地域の子育ての相談役になる人材を育成していきます。
- ・学校、地域づくり組織、市民センターや企業、高等教育機関との連携・協働により、「まなぶ」「つどう」「むすぶ」の視点に立って、子どもを核にし、情報の共有や取組の参考となる事柄を交流することで生涯学習ネットワークの構築につなげていきます。

(2)地域の教育力の向上

- ・学校支援地域本部事業の推進により、保護者や地域の子ども理解や学校理解が深まり、学校教育の充実につながっています。学校のニーズに合った支援を行うため、人材の発掘や育成のために研修会を実施し、ボランティア間の情報交換や交流の場を設けていきます。
- ・学校運営協議会や研修の場を通じ、学校や地域の現状と課題を共有し、取組が充実・活性化するための手立てについて支援し、コミュニティ・スクールの推進に努める必要があります。
- ・学校・地域・保護者が連携・協働し、それぞれが、自分たちに何ができるか当事者意識を持って子どもの成長を支えていく仕組みであるコミュニティ・スクールが、市内全小中学校で設置されています。今後は、子どもを核とした地域づくりの視点を持ち、社会教育委員会議の提言を具現化するとともに、地域学校協働活動を推進していく体制づくりにつなげていきます。
- ・放課後子ども教室については、未実施地域や立ち上げに向けて協議をおこなっている地域に対して、事業着手できるよう積極的に支援していきます。子どもたちが放課後や週末等を安全・安心に過ごせる居場所づくりや多様な体験活動が行われるよう促進していきます。
- ・ジュニアリーダーについては、青少年ボランティア活動を通して社会に参加し、様々な体験のなかで成長できる機会となっています。ジュニアリーダー養成講座の修了者の多くが所属し活動している名張Kidsサポータークラブは多くの会員がいますが、部活動や進学を理由に休会・退会する者もいる中で、ボランティア団体として継続的に活動ができるように、活動機会の提供や技術向上を目的とした研修会を開催するなどの支援を行います。
- ・各地域の市民センターが取り組んでいる地域住民の学習の場としての機能を支援するため、地域での活動内容の収集・共有を行うとともに、地域住民が学習した成果を地域づくりへとつなげる生涯学習の取組が必要です。各地域がそれぞれの地域にある特色を活かし創意・工夫して取り組んでいる活動を、生涯学習推進協議会において共有・交流し、市民が主体的に生涯学習活動が行える環境づくりを整備していきます。

名張市教育振興基本計画
第二次名張市子ども教育ビジョン
令和3年度進捗状況報告書

令和4年12月
名張市教育委員会